



言語・コミュニケーションプログラム

言語やコミュニケーションの理論を
重点的に学ぶ

The study of Intercultural Communication (ICC) is foundational in Language and Communication Program because of culture's strong influence on language use and communication style. ICC prepares language learners to develop a critical awareness of how their own communicative patterns influence communication with people from other cultures. ICC is an interdisciplinary field, drawing from anthropology, linguistics, psychology, and communication studies all of which are important for language learners. ICC helps learners to overcome the communicative disadvantages they face in real communication across cultures.



Lingley Darren (リングリィ ダレン) 教授
(カナダ出身)

【専門分野】 異文化間コミュニケーション
【研究テーマ】 異文化間コミュニケーション・英語教授法
【学位】 修士 (文学)
【著作】 『A Task-based Approach to Teaching a Content-based Canadian Studies Course in an EFL Context』 (単著)
『Apologies Across Cultures: An Analysis of Intercultural Communication Problems Raised in the Ehime Maru Incident』 (単著) 他多数

学べる科目

日米異文化間コミュニケーション論、日欧異文化間コミュニケーション論、英語オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ、英語パブリックコミュニケーション中級・上級、音声学、英語音声学、第二言語習得論基礎論、第二言語習得論、言語・コミュニケーション論演習、ドイツ語オーラルコミュニケーション中級・上級、フランス語読解研究

進路、就職先

【企業等】 ANA福岡空港、エイチ・アイ・エス、関西エアポートエージェンシー、キャセイパシフィック航空、三景、スズキ、西鉄エアサービス 【公務員・教員】 鳥取県警察、高知市役所、延岡市役所、香川県教育委員会、中学校・高等学校教員 【大学院進学】 広島大学大学院、岡山大学大学院、高知大学大学院

卒業生からの
メッセージ



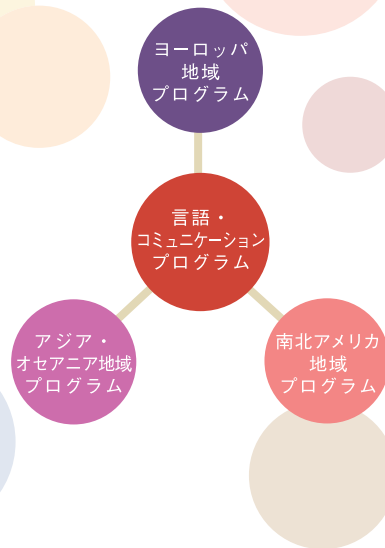
瀧川学園 滝川中学校高等学校 教員
阿曾 佑也さん

(兵庫県出身、東洋大学附属姫路高等学校卒業)

現在、中学2年生と高校2年生に英語を教えています。教育現場において、英語教員に求められる資質はとても幅広いように感じます。言語の知識はもちろん、高いコミュニケーション能力も求められます。本プログラムでは、そういった資質を養うための環境が整っています。その環境を活かし、何事にも貪欲にチャレンジしていきましょう。

プラットフォームと各プログラムの相性

言語やコミュニケーションを学ぶ上で、言葉の実際の運用能力を高めるのはもちろん大切なことです。それとともに、言語とつながりのある文化や、自分とは異なる他者に目を向けることによってこのプログラムでの学びはあっというまに深まります。プラットフォーム科目の哲学や心理の授業、さらに総合文化プログラムに置かれている多くの授業は、異文化としての他者という見方を育むもので、この言語・コミュニケーションプログラムとは密接に結びついています。



ゼミ紹介

ゼミの概要

Language research themes: analysis of authentic spoken texts, assessment of spoken language, listening, development of writing skills through process/genre approaches.

ICC research themes: pragmatics, language use in context, cross-cultural interaction, and comparative culture.

ゼミの雰囲気

This seminar engages students in small-scale research projects related to intercultural communication, comparative culture, and English language education. Special focus is given to analysis of authentic spoken texts, and development of academic and genre-specific writing skills.

ある3年生の「言語・コミュニケーションプログラム」時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限		ドイツ語オール コミュニケーション中級			
2時限			日米異文化間 コミュニケーション論	第二言語習得論	
3時限		ドイツ語読解研究			ヨーロッパ社会文化論
4時限					英語読解研究演習
5時限	TOEIC英語	ゼミナールⅢ		近代社会論演習	



総合文化プログラム

地域の文化、異文化的観点から見た文化、
現代社会における文化の諸相を重点的に学ぶ

「異文化理解」という言葉をよく耳にしますが、真の理解を得るためには、自文化と異文化を大まかに二分して捉えるのではなく、文化のもつあらゆる諸相に目を向ける必要があります。総合文化プログラムでは、文化の諸相を複数の学問分野から、また複数の地域／社会から学びます。

例えば、人間の生活様式・習慣などを文化と捉え考察する文化人類学、文化と社会の関係を考察する社会文化論、文化・社会の変遷を歴史的に考察する文化史、現代文化を考察する上で欠かせない大衆文化論やメディア論など、様々な学問分野で学びながら、ヨーロッパ、南北アメリカ、アジア・オセアニアなどでの地域ごとの文化の多様性に注目する——それが総合文化プログラムでの学びです。

学べる科目

文化人類学、大衆文化論、社会文化交流論、越境文化論、ヨーロッパ社会文化論、メディア論、英米文化史、東南アジア社会文化論、日本文化表現論、比較文化論（日欧・日本社会・日米英・日独・日中・日仏）、言語文化論（アメリカ・イギリス・フランス・中国）

進路、就職先

【企業等】いろは出版、ケーズデンキ、ケーブルネット、JAバンク高知信連、JTB中部、四国スバル、住友生命、DHC、東進四国、徳島銀行、日本赤十字社（病院事務）、ユタカ、よさこいタマホーム 【公務員・教員】高知県公務員、高知県中学校教員、倉敷市高校教員【大学院進学】大阪大学大学院、高知大学大学院



関 良子 准教授（兵庫県出身）

【専門分野】英文学、英米文化史
【研究テーマ】19世紀英文学・文化の研究、特に当時の中世主義について
【学位】博士（文学）
【著作】『The Rhetoric of Retelling Old Romances』（単著）
『〈アンチ〉エイジングと英米文学』（共著）他多数

卒業生からの
メッセージ高知大学 大学院進学 岡田 知也さん
(高知県出身、高知追手前高等学校卒業)

学部では、総合文化プログラムの下で、文化について幅広く総合的に学ぶことによって、「〇〇人」や「〇〇民族」という定義が実はあいまいであることに気付かされました。大学院入学後は、そのようなあいまいな存在としての「日本」、「日本人」について考えることをテーマとしています。

プラットフォームと各プログラムの相性

文化をひとことで語ることはできません。ひとつの文化が形成されるそのプロセスでは、様々なことが重層的に関連し合っています。自文化であれ異文化であれ、それらを理解するには、歴史を含めたその背景に広くそして深く目を向ける必要があります。プラットフォーム科目の多くの授業、ヨーロッパ、南北アメリカ、アジア・オセアニアの各地域プログラム、人文科学コースの歴史・地理学プログラムの授業を履修することによって、文化への理解はいつそう深まります。

歴史・地理学
プログラムヨーロッパ
地域
プログラム総合文化
プログラムアジア・
オセアニア地域
プログラム南北アメリカ
地域
プログラム

ゼミ紹介

ゼミの概要

関ゼミでは第1学期は英語で書かれた文学作品を原典で鑑賞します。題名・作家名は知っていても読んだことがない本を味読する／読破する喜びを体感するとともに、討論を通して資料の分析方法や整理方法を学びます。第2学期は各自でテーマを設定して研究を進め、その成果を研究発表会とゼミレポート集で発表します。

ゼミの雰囲気

2・3年生は合同でゼミを行ないます。また年に2度、2～4年生合同のゼミを開き、卒業論文中間発表会と最終発表会をしています（合同ゼミは合宿形式で行なうこともあります）。「先生から学ぶ」のではなく「仲間どうして学ぶ」機会をもつため、学生間のレポート添削や学年末のゼミレポート集の刊行なども行なっています。

ある3年生の「総合文化プログラム」時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限		フランス語読解研究演習	英語史概論Ⅰ		
2時限				文化人類学	
3時限		ゼミナールⅢ		歴史学概論（教育学部）	ヨーロッパ社会文化論
4時限	フランス語 オーラルコミュニケーションⅠ	ヨーロッパ社会文化論演習		メディア論	英語読解研究演習
5時限					



グローバル社会プログラム

文献の読解、資料の分析、調査の実践から グローバル社会を批判的に考える

このプログラムでは、グローバル化する現代社会のあり方について、主に社会科学の視点と方法から考える力を培います。人・モノ・情報・お金・技術などがグローバルに越境するなかで、現代社会は多元化・複雑化・流動化しており、格差の拡大など多くの問題が生じています。こうした現代社会の実情と適切に向き合うために、多様なデータをもとに多角的に考えるための方法を講義や国内外での実習を通じて習得していきます。具体的には、各種の文献や統計資料、映像資料などを幅広く収集し、批判的に分析する技術、フィールドワークや調査票調査、インタビューなどの調査を実施し、社会の実態についてのデータを自ら得る技術などです。これらの技術を駆使しながら、グローバル社会を批判的に考え、主体的に活動できる力を身につけることを目指します。

学べる科目

グローバル社会と地域、越境社会論、世界経済論、社会ネットワーク論、文化人類学、比較経済社会論、アジア経済社会論、国際協力論、経済発展論、中国経済社会論、南北アメリカ関係論、国際関係論、地域の産業と経済、グローバル社会特殊講義、アジア・オセアニア特殊講義

進路、就職先

【企業等】穴吹エンタープライズ、アルバック地域計画建築研究所、伊藤ハム、エービーシー・マート、高知食糧、高知新聞社、高知信用金庫、JALスカイ、全国労働者共済生活協同組合連合会（全労済）、第一ホンダ販売、トヨタ工機、ネットヨタ、平林物産、フジトラベル・サービス



岩佐 光広 准教授（福島県出身）

【専門分野】医療人類学、生命倫理学、ラオス地域研究
 【研究テーマ】生老病死をめぐるケアの営みの民族誌的研究
 【学位】博士（学術）
 【著作】『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』（共編）
 『メディアのフィールドワーク：アフリカとケータイの未来』（共編）他多数

卒業生からのメッセージ

高知新聞社 記者 眞崎 裕史さん
 (徳島県出身、徳島県立城南高等学校卒業)

全国の若者が集う高知大学は、社会の縮図です。私は在学中、タイの大学に1年間留学し、タイの若者と生活を共にしました。日本社会を「外」から眺めることで、視野がぐっと広がりました。観察力が問われる今の仕事に、その経験が活かれています。皆さんも高知大で学び、本物の社会に飛び出してください。

プラットフォームと各プログラムの相性

グローバル化する現代社会は様々な問題を抱えています。それらの問題と向き合い、解決へ向けてのよりよき方向を模索していくには、政治や経済の社会科学系の学問はもちろん、哲学や歴史をはじめとする人文科学系の学問も動員し、批判的考察を加えていく必要があります。プラットフォーム科目に置かれている現代社会の問題を扱った授業や哲学系の授業、さらに社会科学コースの多くの授業は、このプログラムでの学びを深化させるためには不可欠です。



ゼミ紹介

ゼミの概要

岩佐(光)ゼミでは文化人類学を学んでいます。文化という概念、文化相対主義という考え方、フィールドワークという方法論などを踏まえ、東南アジアの稲作農民、南米アマゾン先住民、アフリカの狩猟採集民などの様々な暮らしぶりを具体的な事例をもとに学ぶことで、人間の多様性と普遍性について考えます。

ゼミの雰囲気

岩佐(光)ゼミでは、私の師匠の教えでもある2つのことを大切にしています。「人間の多様な暮らしぶりを学び考えること」と「言葉にこだわること」です。ゼミ生には、人間のさまざまな生き方に触れ、そこで感じ考えたことを適切に表現できる言葉を探しつつけることにチャレンジしてもらっています。

ある3年生の「グローバル社会プログラム」時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限					
2時限	英語オールコミュニケーションⅠ	南北アメリカ関係論	国際関係論演習	文化人類学	
3時限		中国経済社会論		アジア経済社会論	ヨーロッパ社会文化論
4時限		国際社会総合ゼミナール			
5時限				ゼミナールⅢ	



ヨーロッパ地域プログラム

ヨーロッパの言語・文化・社会を学ぶ、
多面的な理解と実践的な探求力を養う

このプログラムでは、言語・文化・社会を3つの軸として、多様な専門分野からヨーロッパ地域にアプローチします。私の専門はヨーロッパの思想の歴史ですが、そこにも意外な発見や驚きがあります（たとえば「ヨーロッパ」とは、いつから、どんな背景で、どの地域を指す言葉として使われてきたでしょう？）。

マスメディアの一般的なイメージや個々の専門の知識だけでは、その地域を考え、その地域とつながるために必ずしも十分とは言えません。このプログラムでは、多様な専門の知識を組み合わせながら、一般的なイメージの向こう側を学生自身が探求することで、「ヨーロッパ」を形作る複雑な現実を多面的に理解する力と、その現実はどう対応するか自ら考える実践的な探求力を養います。



森 直人 准教授（京都府出身）

【専門分野】社会思想史、近世イギリスの社会哲学
 【研究テーマ】18世紀の思想家デイヴィッド・ヒュームの社会哲学
 【学位】博士（経済学）
 【著作】『ヒュームにおける正義と統治—文明社会の両義性』（単著）
 『越境スタディーズ—人文学・社会科学の視点から』（共編著）他多数

学べる科目

ヨーロッパ社会文化論、英語読解研究、フランス語オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ、日欧異文化間コミュニケーション論、比較日独文化論、社会思想史、英語テキスト構成研究Ⅰ・Ⅱ、ドイツ言語文化論、ヨーロッパ・ロシア経済社会論、フランス言語文化論、ドイツ語メディア論演習、比較日欧文化論

進路、就職先

【企業等】梅乃宿宿造、関西国際空港、JTB中国四国、JTB中部、四国銀行、四国労働金庫、タマホーム、中部国際空港、プラス
 【公務員・教員】熊本県公務員、高知市公務員、仁淀川町公務員、東香川私立中学校教員、倉敷市高校教員 【大学院進学】高知大学大学院、大阪大学大学院、千葉大学大学院、Newcastle University Graduate School

在学生からの
メッセージ



田淵 圭那子さん（4年生）

（岡山県出身、岡山県立瀬戸高等学校卒業）

私は主にヨーロッパ地域の文化を研究するプログラムを履修しました。英語とドイツ語の勉強だけでなく、ヨーロッパの神話や衣服の発展の勉強、ドイツのポップス音楽の考察が興味深く、印象に残っています。学期末に自分でテーマを決めてレポートを書くと、より理解が深まりました！

プラットフォームと各プログラムの相性

地域と言語は密接に結びついています。英語を含め、プラットフォーム科目に置かれているドイツ語・フランス語・スペイン語から複数の言語を習得することがこのプログラムで学びの質を高めることでしょう。また、地域を捉える観点は様々な分野・領域へと広がりを見せるので、言語・コミュニケーション、総合文化、グローバル社会の各プログラムはもちろん、人文科学コース、社会科学コースの各プログラムに置かれている哲学、歴史、政治、経済の授業はこのプログラムと深く関係しています。



ゼミ紹介

ゼミの概要

森ゼミでは、ヨーロッパを中心に歴史上の思想家について学んでいます。歴史に残る思想には、細分化された現在の学問にはない広がりや深みがあります。多様な思想家に学び、興味のある思想家について掘り下げ、現代を考える新しい枠組みを見つけ出す—そうした学びの場になれば、と考えています。

ゼミの雰囲気

他の人と言葉を交わして、その人を知り、また自分を伝え、互いに何かを共有する対話の楽しさを大切にしたいと考えています（思想史も、現在と過去の対話ですから）。他大学と合同ゼミ宿舎を行ったりして、対話を楽しむ幅を広げています。卒業生たちは、和やかでのんびりしたゼミと感じてくれたそうです。

ある3年生の「ヨーロッパ地域プログラム」時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限		ドイツ語オーラル コミュニケーション上級Ⅰ			
2時限	英語オーラル コミュニケーションⅠ		国際関係論演習		
3時限		社会思想史		社会文化交流論	ヨーロッパ社会文化論
4時限	西洋史概論Ⅰ			ゼミナールⅢ	英語読解研究演習
5時限				近代社会論演習	

LA ÉLITE DE SEWELL: LOS NORTEAMERICANOS

La sociedad sewellina estaba estructurada en base a los “roles” o jerarquías laborales definidas por la Braden Copper Co. Los directivos y jefes superiores conformaban el llamado “rol A” mientras que los empleados y obreros correspondían a los roles “B” y “C”, respectivamente.

Baile de celebración d

El “rol A” era el
dólares. Hasta
mayoritariamen
vivían en cómo
un sector exclu
Americana. Ad
y de un colegi
familias: el Ter

南北アメリカ地域プログラム

南北アメリカを通して
現代世界が抱える問題の本質を見抜く力を養う

上の写真は、20世紀前半に米国資本によって開発が進められたチリの鉱山町・セウエルにある博物館に掲げられているパネルの一部です。それは「セウエルのエリート層とはすなわち米国人である」という一文から始まっています。南北アメリカ関係の一面を端的に表現しているフレーズです。

世界の大国・米国から最貧国・ハイチまで混在する南北アメリカ地域について学ぶことは、現代世界が抱える問題の遠因・要因、本質を明らかにすることにも通じます。米国の視点から世界を見ることは重要ですが、そのみで世界を理解することはできません。様々な角度から世界を見ることでその実像が見えてきます。理解も深まるはずですが、本プログラムで現代世界が抱える問題の本質を見抜く力を養ってみませんか。

学べる科目

南北アメリカ特殊講義、ラテンアメリカ経済社会論、アメリカ言語文化論演習、南北アメリカ関係論、スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ、英語読解研究、国際関係論演習、国際協力論、経済発展論、国際関係論、世界経済論、英語オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ、英語テキスト構成研究Ⅰ・Ⅱ、貿易英語、英語ビジネスコミュニケーション

進路、就職先

【企業等】イーオンウエストジャパン、エービーシー・マート、サイボウズ、ダイヤモンド・ダイニング・グループ、瀧定大阪、近森産業、近森病院、鳥取銀行、トマト銀行、日本生命、ネットヨタ南国、ハート、Pacific Diner Service、PHP出版、マイナビ、リクナビ
【公務員・教員】姫路市消防署、さいたま市役所、高知県庁、備前市役所、岡山市教育委員会（英語教員）
【進学】愛媛調理製菓専門学校



中西 三紀 准教授（愛知県出身）

【専門分野】チリ農業論、ラテンアメリカ経済論
【研究テーマ】グローバリゼーション下のチリ農業の構造変化
【学位】博士（経済学）
【著作】『グローバリゼーションと世界の農業』（共著）
『資本主義的グローバリゼーション—影響・抵抗・オルタナティブ』（共訳）他多数

在学生からの
メッセージ



上田 奏美さん（3年生）

（大分県出身、大分県立佐伯鶴城高等学校卒業）

高校生の頃から南米に興味があったので、ラテンアメリカ経済社会論や南北アメリカ関係論を履修して知識を深めました。また南米を専門とする先生のゼミナールに所属しており、より深く学ぶことができています。これからはプログラム制で学んだことを基に、卒業論文に向けて取り組んでいきたいです。

プラットフォームと各プログラムの相性

南北アメリカ地域を学ぶには、英語はもちろん、プラットフォーム科目に置かれているスペイン語も大切です。また、グローバル化に伴う問題を抱えた地域でもあるので、グローバル社会プログラムとは密接に関係しています。さらに歴史的にヨーロッパをはじめとする他の地域とも深いつながりを有するので、総合文化プログラムやヨーロッパ地域プログラム、さらに人文科学コースの歴史・地理学プログラムの文化や歴史に関する授業は学びに広がりを与えてくれます。



ゼミ紹介

ゼミの概要

中西ゼミでは、ラテンアメリカを手がかりにしつつ、複雑極まりない現代世界の考察に果敢に挑み、自分自身の世界の見方を創りだしていくことをゼミの目的としています。学びの集大成ともいえる卒業論文には、ボリビアの先住民問題やメキシコ系米国人、地産地消など、現代世界の問題に切り込む力作がそろっています。

ゼミの雰囲気

相手の意見に耳を傾け、それをふまえて自分の意見を相手に伝える、そのために必要な知識や技術を身につける、こうしたことが大学で学ぶ意義だと思っています。そのためゼミでは、学生間で「話し合う」ことを重視しています。ゼミ生たちには色々なことを考えるきっかけになったと思ってもらえているようです。

ある3年生の「南北アメリカ地域プログラム」時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限	環境経済学				
2時限		ラテンアメリカ経済社会論	社会思想史演習	東南アジア社会文化論	アメリカ言語文化論
3時限		ドイツ語読解研究		南北アメリカ関係論演習	
4時限	ドイツ語 オーラルコミュニケーションⅠ	ゼミナールⅢ		英米文化史	大衆文化論演習
5時限					



アジア・オセアニア地域プログラム

日本を含めたアジア、およびオセアニア地域の 言語・文化・社会を多角的に学ぶ

このプログラムでは、主にアジアの国々の言語・文化・社会・経済・歴史といった複数の領域を、分野を超えて学び、多様で且つ激しく変動するアジア地域の姿を多角的に捉える力を身につけます。また、外国だけではなく日本についても学び、グローバルな問題意識の中で相対的に日本を捉える力、それを世界に発信する力を身につけます。日本語教員養成課程の履修に必要な科目も多く組み込まれており、私はその中の「外国語としての日本語」「外国語としての日本語演習」といった授業を担当しています。これらの授業では、外国人日本語学習者の観点から現代日本語を客観的に捉え、分析します。留学生も多く受講しており、留学生、日本人学生がそれぞれ意見を交換しながら、共に学んでいます。



佐野 由紀子 准教授（奈良県出身）

【専門分野】日本語学（現代日本語の文法・語彙）
【研究テーマ】程度・量に関わる表現について
【学位】修士（文学）
【著作】「現代日本語文法」（共著）他多数

学べる科目

貿易英語、中国語読解研究、中国語オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ、英語オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ、中国経済社会論、比較日中文化論、東南アジア社会文化論、日本文化表現論、日本語教授法、東洋史概論、アジア経済社会論、アジア・オセアニア特殊講義英語テキスト構成研究Ⅰ・Ⅱ

進路、就職先

日本語講師（釜山外国語大学、白石大学、チャムス大学、安徽大学、プラビジャヤ大学、ドクターストモ大学、同志社大学、立命館アジア太平洋大学）、北九州外国語センター、静岡日本語センター 【企業等】兼松エンジニアリング、かんぼ生命、高知銀行、JTB中国四国、大和証券、とさでん交通、直本工業【大学院進学】大阪大学大学院、九州大学大学院、高知大学大学院、早稲田大学大学院

卒業生からの
メッセージ

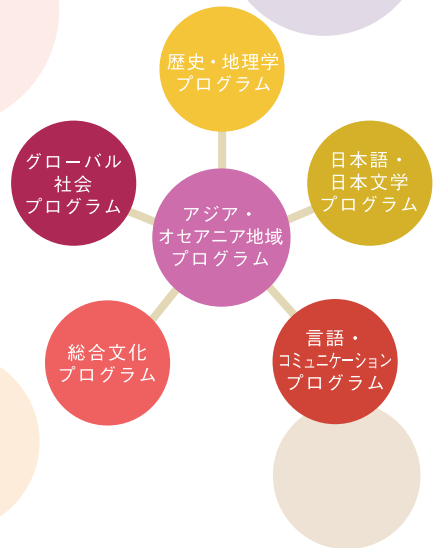


白石大学 日本語教師 大内 彩さん
(愛媛県出身、愛媛県立松山中央高等学校卒業)

私は人文学部卒業後、大学院に進学し現在は韓国の大学で日本語を教えています。日本語教師という仕事は中学生の時から夢でした。今、夢を叶えられたのは大学時代に会った先生方や一緒に学んだ先輩、友人たちのおかげです。受験生のみなさんも高知大学で素晴らしい人々と学びに出会えますように。

プラットフォームと各プログラムの相性

アジア・オセアニア地域を学ぶうえで、プラットフォーム科目の英語や中国語は大切です。また、近年成長著しい地域でもあるので、地球規模の問題と深く関わってまいります。その意味で、このプログラムは、グローバル社会プログラムと密接に関係しています。さらに、日本について学ぶ、あるいは日本語教員養成課程を履修するには、人文科学コースの歴史・地理学プログラムや日本語・日本文学プログラムに置かれている多くの授業がとても役立ちます。



ゼミ紹介

ゼミの概要

佐野ゼミでは「日本語」について考えています。外国人が日本語を学ぶとき、どのような点が問題になるのか。子どもが言葉を習得するときにはどうか。言葉はどのように変化するのか。高知方言の特徴は？等々、普段何気なく話している言葉ですが、様々な視点から捉えることによって、新たな発見があると思います。

ゼミの雰囲気

ゼミの一環として留学生対象の授業に参加し、「日本事情」教育について考える、といったこともしています。留学生たちとディスカッションしたり、自ら設定したテーマについて発表したり…熱い学びの姿勢を持った同世代の留学生たちに刺激を受けながら、能動的に学んでいます。

ある3年生の「アジア・オセアニア地域プログラム」時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限		比較日文化論	日本語方言の探求		
2時限	英語 オーラルコミュニケーションⅠ	日本文化表現論	ゼミナールⅢ		
3時限		中国語読解研究		アジア経済社会論	
4時限				日本史概論	日本語教授法
5時限					